

きゅうみのじけじゅうたくこめぐら 旧美濃地家住宅米蔵

閉館日を除き 9 時～16 時まで見学可能
閉館日：月曜日、祝日の翌日
冬季（12 月 16 日～3 月 15 日）

1. 建物の概要

所在地	益田市匹見町道川
所有者	益田市
建築年代	江戸後期（1751～1830）/ 平成 17（2005）年改修
登録年	平成 30（2018）年
構造等	土蔵造 2 階建・瓦葺 建築面積 73 m ²



【旧美濃地家住宅米蔵】

2. 沿革

江戸時代後期に上道川村において周辺の村々を掌った割元庄屋美濃地家の旧宅
平成 15（2003）年に美濃地家から地域のために活用できればと匹見町に寄贈される。
平成 17（2005）年に修復工事を終え、旧割元庄屋美濃地屋敷として開設。
米蔵は、美濃地家で使用されていた品々の展示施設として改装された。

3. 建物の特徴

この建物は、敷地北東隅に主屋と庭を挟んで建っており、間口 2 間、奥行 6 間の規模である。
一般に土蔵は戸前を 1 箇所とするものが多いが、この建物では棧瓦葺の庇を掲げ、二重引戸とした戸前を南面と西面の 2 箇所に設けている。現在は間仕切りのない空間となっているが、内部には貫ぬきを入れたホゾ穴や柱穴の痕跡を見ることができ、元々南側から 2 間の箇所に間仕切壁を入れて内部を隔て、2 つの用途で使用していたため入口が 2 つになっている。



【鳳凰を象った鍔絵】

外観については、妻飾に鳳凰と家紋を象った鍔こてえ絵を掲げているところが目を引く程度で、2 階の開口部も鉄格子窓が 2 箇所と青く縁取られた虫籠窓むしごまどが 1 つあるのみと装飾は簡素な印象である。

旧美濃地家住宅米蔵は、展示施設として使用されるようになったことで、内部に多少の改造こそ認められるが、内外ともに往時の趣を残しており、主屋とともに同家の屋敷景観を伝える遺構として貴重なものである。